

都市再生整備計画 事後評価シート

(原案)

川辺湖岸地区

平成28年 2月

岐阜県川辺町

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	岐阜県		市町村名	川辺町		地区名	川辺湖岸地区			面積	260ha		
交付期間	平成23年度～平成27年度		事後評価実施時期	平成27年度		交付対象事業費	501百万円	国費率	0.4				
1) 事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		基幹事業	事業名 道路(町道下川辺石神線、町道祖宮神線、町道仲溝1号線、町道仲坪線)、地域生活基盤施設(緑地、情報板)									
			提案事業	地域創造支援事業(公民館音響改修)、事業活用調査(事業効果分析)									
	当初計画から削除した事業		基幹事業	事業名		削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響				
			提案事業	-		-			-				
	新たに追加した事業		基幹事業	公園(東光寺公園)		川辺ダム湖周辺に位置する東光寺公園は、子ども達の遊び場やウォーキング、散歩をする方の休憩所となっているが、遊具が少ないため、不満が多く遊具設置に対する要望が強いため、事業を追加する。			-				
			提案事業	-		-			-				
交付期間の変更		当初	平成23年度～平成27年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響			-					
		変更	-		-			-					
2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
				基準年度	目標年度		モニタリング	評価値					
	指標1	生活道路や歩道の整備に関する満足度	%	40.3	H19	42.0	H27	-	75.0	○	あり なし	事業の実施により区内の道路整備が進み、生活の利便性や歩行者の安全性が向上したことから、満足度が向上したと考える。	平成28年10月
	指標2	飛騨川散策路の歩行者数	人	94	H22	104	H27	-	144	○	あり なし	区内の道路整備による、飛騨川散策路へのアクセス環境改善や、散策路に面する東光寺公園やゆめ広場の整備、公共サイン整備により、歩いて楽しい散策路へと環境改善を図った結果、歩行者数が増加したと考える。	
	指標3	中央公民館ホールの利用回数	回	53	H21	58	H27	-	53	△	あり なし	● 目標未達成であるものの、公民館音響改修を行った後は、利用状況の改善がみられるため、一定の効果は得られたと考え、今後もより一層利用促進を図っていく。	平成29年4月
指標4	東光寺公園の満足度	%	36.6	H23	41.0	H27	-	82.6	○	あり なし	遊具施設や休憩施設の整備が、付近の散策路整備の効果とともに利用利便性の向上に寄与し、高評価に結び付いたものと考え。		
3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
				基準年度	目標年度		モニタリング	評価値					
その他の数値指標1	中央公民館を1年以内に利用したことがあると回答した人の割合	%					-	54.5				事業実施により、「この1年間に中央公民館を利用している人の割合」は、「以前は利用していたがこの1年間利用していない人の割合」を大きく上っており、公民館の整備効果が利用者増に結び付いたものと考え。	平成28年10月
4) 定性的な効果発現状況													
5) 実施過程の評価	実施内容				実施状況				今後の対応方針等				
	モニタリング		-		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				-				
	住民参加プロセス		東光寺地区まちづくり勉強会		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 平成23年度に勉強会等を計3回開催した結果、地元の合意形成が得られず、土地区画整理事業の実現には至らなかったが、次年度以降、整備手法の見直しによりまちづくりの実現に向けた調査、検討を継続していく。				
	持続的なまちづくり体制の構築		-		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				-				

様式2-2 地区の概要

川辺湖岸地区(岐阜県川辺町) 都市再生整備計画事業の成果概要								
まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	目標値		評価値		
大目標 住み続けたい 訪れたい 川辺湖岸のまちづくり 目標1 道路や公園などの公共公益施設の充実による快適な生活空間づくり 目標2 ダム湖を活かした健康と交流の拠点づくり	生活道路や歩道の整備に関する満足度 単位:%	40.3	H19	42.0	H27	75.0	H27	
	飛騨川散策路の歩行者数 単位:人	94	H22	104	H27	144	H27	
	中央公民館ホールの利用回数 単位:回	53	H21	58	H27	53	H27	
	東光寺公園の満足度 単位:%	36.6	H23	41.0	H27	82.6	H27	



まちの課題の変化

- ・地区内の町道等の整備により、市街地や国道41号線美濃加茂バイパスの川辺石神IC/川辺鹿塩ICへのアクセス性が向上した。
- ・かわべ夢広場の改修により、町の顔となる空間が整備されるとともに、公共サインの整備により、来訪者の円滑な誘導が可能となった。
- ・飛騨川沿岸部の施設(かわべ夢広場、東光寺公園、庁舎、中央公民館等)の再整備により利便性が向上し、町民の満足度が高まった。
- ・事業完了後も歩道設置の未施工区間が残る町道下川辺石神線について、引き続き歩道設置工事の推進が必要。

今後のまちづくりの方策(改善策を含む)

- ・主要幹線道路及びICから本町内へのアクセス環境が向上したことにより、自動車利用による生活圏の交流拡大のための機能導入を推進する。
- ・飛騨川沿岸部は、水際オープンスペースとしての位置づけをしており、ウォーキングコースや公園及び中央公民館のさらなる利用増加を図る。
- ・町内外の施設利用者に対して、各公共施設のサイン計画をさらに充実させることにより、各施設利用者及び初めて来町する方に親切なまちづくりを推進する。
- ・交通量の増加が予想される路線の歩車分離を行い、安全な交通環境を提供するために、歩道未整備区間の歩道設置事業を継続する。